

鳥取大学教育支援・国際交流推進機構 教養教育センター広報アゴラ

No.50
2024.4

àgora

新入生歓迎号



《目 次》

自分で考え対応する力をつける……………	学長 中島 廣光 ……………	1
目標を高く掲げて学びを始めよう… 理事（教育担当、国際交流担当、基金担当）・副学長	山口 武視 ……………	2
新入生のみなさんへ……………	地域学部副学部長 塩野谷 齊 ……………	3
変化を恐れずに挑戦……………	医学部副学部長 中曾 一裕 ……………	4
飽くなき「想像」から「創造」へ……………	工学部副学部長 谷口 朋代 ……………	5
現場は楽しいぞ！……………	農学部長 明石 欣也 ……………	6
大学生活を思いっきり楽しもう……………	地域学部地域学科（令和2年度入学）室久久瑠実 ……………	7
人生で一度きりの大学生活！……………	医学部保健学科（令和3年度入学）長谷川健太 ……………	8
鳥取大学へ入学する新入生の皆さんへ……………	工学部化学バイオ系学科（令和2年度入学）松田 拓也 ……………	9
変化を恐れずに……………	農学部生命環境農学科（令和3年度入学）菊池 歩 ……………	10
みんなで鳥取大学の学びを創ろう！……………	高等教育開発センター長 香川 敬生 ……………	11
自由と責任……………	入学センター教授 森川 修 ……………	12
学びの多様性を体験しよう……………	教養教育センター長 小林 昌博 ……………	13
ようこそ鳥取大学へ！……………	データサイエンス教育センター長 橋本 隆司 ……………	15
大切だと思うこと……………	教員養成センター准教授 大谷 直史 ……………	16
これからの4年間・6年間の重み……………	キャリアセンター准教授 長尾 博暢 ……………	17
「世界」はあなたのすぐそばに……………	国際交流センター教授 御館久里恵 ……………	18
（留学生紹介コーナー）新しい始まり……………	地域学部地域学科（令和5年度入学）キム ヨンイン ……………	19
穏やかな学生生活のために……………	保健管理センター所長 三島香津子 ……………	20
何故に、そして、学生支援センターへどうぞ……………	学生支援センター長 後藤 知伸 ……………	21



自分で考え対応する力をつける

学長 なか **中** しま **島** ひろ **廣** みつ **光**

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。鳥取大学を代表してみなさんの入学をこころよりお祝いし、歓迎いたします。

大学での学びについて少しお話します。いま将棋界では藤井聡太棋士が八冠を制覇するなどの大活躍で、将棋ブームが起こっています。私たち素人が将棋に強くなる早道は、定石を覚えることですが、有段者によれば、定石を覚えてある程度強くなると、次のステップはそれぞれの定石の意味を理解し身につけることだそうです。そうすると、定石から外れた色々な局面にも応用でき対応できるということです。

仕事においても、マニュアルがあれば、それに従って仕事を進めれば大きな間違いを起こさずにスムーズに仕事が進みます。しかし、ひとたび緊急事態が発生したときには、仕事をする人が、原理を理解した上で、ひとつひとつの手続きのもつ意味、順番の意味を十分に理解していないと適切な対応ができません。また、統計はいまや科学にとって欠かせない手法ではありますが、データをパソコンに入れるだけで、簡単に平均値や標準偏差などが得られ、さらに数値同士の有意差などが検定できます。便利になった一方で、それぞれの処理した数値のもつ意味を十分に理解していないと、結果を完全に解釈することができません。

高校までの教育では、試験で良い成績をとるために授業で教えてもらったことを試験でどのように使うかを覚えることが主眼だったと思います。しかし、大学の教育では試験への対応を覚えるかどうかではなく、学んだ知識同士のつながりや、その裏にある本質や原理を理解することが重要で、そのためには日頃から何事も深く考え、理解する習慣を身につけることです。

大学教育の目的のひとつは、みなさんに変化の激しい、厳しい社会で生き抜く力をつけていただくことです。社会に出ると専門に限らず色々な問題、課題に出会います。そんな時に、それらに対応できる力は、漫然と流れる日常の中で、問題、課題に対しては立ち止まって深く考え、本質を理解し、解決する道を探る習慣から生まれます。

大学教育のもうひとつの目的は、より良い社会を作る力を持った社会人になってもらうことです。社会に出た後で、政治・経済・国際の分野だけでなく、それぞれの専門分野、例えば教育の分野、科学技術の分野でのみなさんの、例え小さくても活躍の積み重ねで社会を良い方向に変えることもできます。

鳥取大学での4年間・6年間の学びがみなさんにとってそういった目的にかなった有意義なものになるように願っています。また、そうなるよう教職員一同みなさんを一生懸命サポートいたします。



目標を高く掲げて学びを始めよう

理事（教育担当、国際交流担当、基金担当）・副学長 やま ぐち たけ し
山 口 武 視

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。みなさんの入学を心より歓迎いたします。新しい場所で新しい人と出会えることの大きな期待と少しの不安をお持ちかもしれません。しかし、そんな不安を吹き飛ばし、これから鳥取キャンパスまたは米子キャンパスで充実した日々を送るためには、何ごとにも挑戦する気持ちをもつことが大切です。「努力する」みなさんを私たち教職員は在学生と共に全力で応援いたします。

さて、みなさんは高校では「大学に入る」というひとつの目標に向かって努力してこられたと思います。その目標を達成して本学に入学した今、次の目標は何ですか？ この目標設定を考えるヒントとなるのが、周りの人から尋ねられる2つの質問、「なんで鳥取大学に来たの？」と「大学で何したい？」です。

「なんで鳥取大学に来たの？」の質問に対しては、「偏差値で入れそうな大学がここだったから」と答える人もいるかも知れません。もちろん、その理由でかまいません。数ある大学の中でよくぞ本学を選んで下さいました。ありがとうございます。

もうひとつの質問、「大学で何したい？」はとても重要な質問で、これはあなたの未来の夢を問うものです。実は、入学できたことに満足していて、まだ、明確な答えを持ち合わせていないということはありませんか。「周りの友だちが大学に行くから」、とか、「社会で活躍するためには四年制大学を出ておいたほうがよいと親が言ったから」、など、それほど深く考えずに大学に入学した人もおられるかもしれません。でも、漫然としてはいけなく、ときとそそのうち気づきます。一方、しっかりと目的を持って進学してきた、という人も、今一度「大学で何したい？」の質問に対する答えを確認してみてください。

大学では単位を取得するための成績が良いだけでは、自分が望む就職先に行けるとは限りません。それはなぜでしょうか。高校までの勉強は、必ず正解があり、正解に導く方法も先生が教えてくれました。試験に出る範囲も限られていました。しかし、大学での学びの中では、正解は一通りではありません。むしろ正解がない場合の方が多いかもしれません。人と違うから間違っている、と考えてはいけません。人と違うことは個性として認めることも、認められることも必要です。そしてなによりも自分から動き出さないと、学び始めないと、何も始まらないということに早く気づきましょう。

自分の目標が何なのかを定めて、その実現に向けて学びを始めましょう。その学びは、なにも机にかじりついて本を読んだり知識を記憶したりするだけではありません。あなたたちの多様な学びができる環境も設備も人も、この鳥取大学には揃っています。

さあ、みなさん。自分を磨き、自分が輝き続けるために、理想を高く掲げて、より多く、より深く学び続けましょう。私たち教職員はあなたたちの知的挑戦にエールを送り続けます。



新入生のみなさんへ

地域学部副学部長 しおのや 塩野谷 ひとし 斉

新入生のみなさん、おめでとうございます。私たち大学教職員は、ご入学を心より歓迎します。そして、これからの学生生活が充実した、実り多いものとなるよう願っております。

申し上げるまでもなく、大学には様々な分野の専門の教員がいます。高等学校までの学習を踏まえて、学生が第一線の研究者である教員から、あるいは、教員や他の学生とともに学ぶところが大学です。しかしそれは、大学生がそれぞれの専門分野という狭い蛸壺に閉じこもることを意味しません。

大学は、それぞれの専門を深める場であることはもちろんです。その点で、スペシャリストの養成が行われるところです。しかしそれは、広い視野と確かな倫理観等に支えられて活かされるものと考えるべきでしょう。無茶を言うようですが、やはりスペシャリストである前にジェネラリストとしての学びも必要なのだと思います。大学入学後もこの点は意識しておく必要があります。

まずは、みなさんには、様々な学問分野に関心をもって大学生生活を始めていただきたいと思います。特に地域学部の学生には、学びの場を学内にとどめず、身近な地域に足を運んで様々な人と出会い、ご自身の専門に限らない体験を得ていただきたいと思います。そしてその体験を、学内での学びに照らしながら、深いところで自らのものにする、すなわち経験にすることを願っています。

ちなみに、私の専門は、保育学・幼児教育学です。幼い子どもたちの成長発達をいかに支えていくかということを考える分野です。その際、就学前の子どもが成長発達する場は、大きくは、家庭、幼稚園・保育所等、そして地域ということになるでしょう。そこには、様々な価値観を持つ人々がいて、多くの異なった環境があるわけです。それらへの目配りは欠かせません。

肝心の子どもに関する深い理解はもちろん、例えば、保護者の就労や保護者自身が育ってきた状況、地域の自然や社会環境、あるいは、国や自治体の政策、さらには世界の動向等をできるだけ理解する必要もあるわけです。それらを欠いては、結局、一面的な批判を行うだけになるか、もしかしたら、現状を追認するしかなくなると思うのです。

私自身が学生時代を過ごしたのは、もうずいぶん昔のことになります。今思えば、大学から大学院へと、経済的な自立をほとんど気にせず、かなりの親不孝をしたものです。しかし、その時期は、これまでの人生の中で最も充実したものであったと感じます。現在の大学教員という立場も大きいかもしれませんが、その頃学んだことが今の私の支えになっている部分が少なくないと感じます。

新入生のみなさんには、ぜひこの鳥取大学、そして、この鳥取の地に軸足をおきながら、広い視野を持って、よりよい学生生活を送っていただきたいと期待しております。



変化を恐れずに挑戦

医学部副学部長 なか **中** そ **曾** かず **一** ひろ **裕**

鳥取大学医学部新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。これまでの努力に敬意を表しますとともに、鳥取大学の一員となられることを心より歓迎いたします。

大学生生活の始まりは、皆さんにとって「人生最大の変化・変換点」のひとつとなるはずですが、未経験の学問領域との出会い、初めてのひとり暮らし、今までとは異なる生活環境、これらの変化は時に辛く感じるかもしれませんが、それを乗り越えた時にこそ世界が一気に広がるはずですが。変化を恐れ、拒み、同じ場所に留まることは成長のチャンスを逃すようなものです。勇気を持って変化を求めた人・変化を受容できた人ほど、人間力が高まるものと確信しています。医療でも研究でも、常識は日々書き換えられ、それに順応できる者のみ生き残り、古い常識に縛られた者は時代に取り残される世の中です。「考えて問題を解決する能力」とともに「変化を受容できる能力」は、現代の医学において強く求められる能力と言えます。さらに欲を言えば、「変化を作り出せる人材」に成長してくれることを期待します。それは仕組みを作る者、新しい発見をする者であり、自ずと社会のリーダー的存在となる人材でもあります。

鳥取大学医学部では、医学教育、最先端医療から地域に密着した医療・看護、世界的な超一流の研究まで、多彩な変化と挑戦の機会を皆さんに提供できると考えています。本学医学部卒業生の進路も、医療職や医学研究者にとどまらず、起業して産業界から医療を支えようとする人、政治家や官僚になって医療を支えようという人まで、実に様々です。単に受け身で学ぶだけでなく、学問、研究、課外活動など目の前に広がるチャンスに積極的に立ち向かってください。変化を恐れず、研究室でもサークル活動でも、興味のある分野の門戸を叩いてみることをお勧めします。自分自身の新しい可能性を発見できるはずですが。あなたの人生を豊かにするのはあなた自身の「変化を恐れず挑戦する精神」です。そして鳥取大学関係者一同、あなたの挑戦を応援できることを楽しみにしています。



飽くなき「想像」から「創造」へ

工学部副学部長 たに **谷** ぐち **口** とも **朋** よ **代**

新入生の皆さん、入学おめでとう。新しい生活について思案を巡らせていることと思います。

皆さんには、無限の可能性と有限ながらも多くの時間があります。今だからこそできる様々なことに挑戦して、自分の未来の礎を築いてください。

そこで、思索に耽ることをお勧めします。

まず、何もない状態で何かを想像してみてください。想像することは何でも構いません。「あれがしたい。」に始まり、「それは、どうなっているのだろうか？」など、知的好奇心に駆られるまま、想像を巡らせてみてください。そして、想像を具体化するために必要な事柄を「信頼できる書物」で調べてみてください。「信頼できる書物は何？」から始まるかもしれませんが、講義で見聞きする事柄の中にきっかけがあるかもしれません。面倒でも調べているうちに、想像していた事柄が、既に明らかであったり、今は正しいとされている事柄からずれていたりするなど、様々なことに気づくでしょう。ポイントは、その想像が、論理的あるいは科学的に否定されるほど、それは皆さんにとって「成功」であり、次のステップへの糧になるということです。否定されずに残った想像の部分があれば、それを深めるように根気強く想像を続けてください。もし、想像の全てが、理由をもって否定されたなら、別のことを想像すれば良いだけです。

想像と否定を繰り返していくうちに、調べるべき書物も無くなり、自ら調査・実験しなければならぬ時が来るでしょう。その先にこそ、「創造の入り口」があると信じて行動し続けることで、様々なものが具現化され、それらがつながった瞬間に、創造の扉が開くのだと私は思います。

事前の準備や知識があったほうが、物事が実現する確実性が高まると、よく言われます。確実性を高めて効率よく物事を進めることは、単純な競争状態では機能したやり方です。

一方、無の状態から自由に想像を始め、諦めずに創造へ繋げようとする試みは、不安でつらいものです。しかし、実現する確実性が極端に低くなることが明らかだとしても、混沌とした状態から抜きん出て、ORIGINALなものを創り出し、未来のフロントランナーになるためには、必要不可欠な方法ではないかと私は思っています。

次世代を担う皆さんが、知的好奇心の赴くまま自由に想像し、これからの時代を切り開いていかれますことを、私は願っています。



現場は楽しいぞ！

農学部長 あかし 明 し 石 きん 欣 や 也

新入生のみなさん、鳥取大学へようこそ。さて、鳥取大学は「知と実践の融合」をモットーとしています。様々な「現場」は、この融合を体感する良い機会です。これに関して私の経験談を紹介します。

スイカは鳥取の名産品の一つで、6月からの収穫期には、光沢のある大玉スイカがずらりと並び壮観の眺めです。鳥取県園芸試験場では、アフリカの野生種スイカの種を育種などに利用しています。私たちも「現場のスイカを見に行こう」となり、スイカ起源地のアフリカ・ボツワナの調査に行きました。

さて、ボツワナの空港に到着して、お昼をレストランで済ませ、さあスイカを探しに行きましょうという時に、駐車場の脇にスイカが雑草化し果実がついていたのにまずびっくりです。スイカ農家を訪問すると、収穫シーズンには外観が様々なスイカが畑に乱雑に実ります。それを家族で収穫し、頭に乘せて小屋や車の所まで歩いて運びます。アフリカの人は重い荷物を頭に乘せて、手を添えずに運ぶのが上手です。私もやってみましたが、めったにできないゲームをしているようで面白かった。別の農家に行くと、「スイカビールを飲んでみるかい？」と聞かれ、ぜひと答えると、マグカップと棒を渡されて、「あそこのお玉を使って樽からビールを汲んで、固まらないようにかき混ぜながら飲みなさい」とのこと。飲んでみると、ウリ科独特のほのかな苦みが清々しく、甘みと酸味もあって絶品の味でした。

水が乏しいボツワナでは農業は専ら雨季の降雨に依存します。年間降水量は平均500 mm程ですが、大干ばつの年はその1/5となり、こんな年は耕地に種を撒きません。こんな年でも生える雑草の一つがスイカで、眺めていると葉が緑色ではなく青白く見えます。炎天下で頭がふらつくので目の錯覚かと思いましたが、十分に睡眠と休息をとった翌朝も青白く見えます。これはホントの色だと思いなおし、葉を指でこすってみると表面の粉が剥がれて下から緑色の葉が見えてきます。ストレス下で植物が表面にワックスを作り、光を反射させて身を守る現象だったわけです。現地では他にも沢山の体験をしました。

その後、スイカの光合成をelectrochromic shiftという手法で測ることになりました。この測定器は市販されていないので、米国ワシントン州立大学のKramer教授の研究室に何度かお邪魔しました。ここで、理論を踏まえて部品を加工し、プログラミングで制御する等、測定器を自作する一連の工程を夢中で体験しました。物事には仕組みがあり、理解することができ、変えることができるという、新鮮な驚きでした。滞在中は、アメリカの大学の研究室でも実に多くの（大抵は悩ましい）ヒューマン・ドラマを身近に目撃し、教授が“Students have everything”とぼやいているなど、別の意味でも楽しい勉強でした。

現場にはしばしば学生と一緒にいきます。アフリカのヨハネスブルグの空港では、アフリカの格言とされる次の言葉が搭乗口の壁に表示されていて、妙に納得したことを覚えています。

If you want to go fast, go alone. If you want to go far, go together.

（急いで行きたいなら独りで行け。遠くに行きたいなら皆で行け）。

独りで行くのもよし、皆でもよし。皆さんが学生時代に貴重な経験ができますよう、期待しています。

大学生活を思いっきり楽しもう

地域学部地域学科（令和2年度入学） **むろ い くるみ**
室 井 久瑠実

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。ようこそ鳥取大学へ！

みなさんは今どんな気持ちですか？これから始まる大学生活を心待ちにしている人、慣れない環境に不安を感じている人など、様々な思いを持って過ごされているかと思います。私は入学した時、初めての一人暮らしに不安を感じながらも、新生活への期待に胸を膨らませていました。今回は、私から新入生のみなさんに大学生活を送るにあたって大切にしたいことをお伝えします。

【新たな出会いを大切に】

大学では、様々な場で様々な出会いがあります。サークルやアルバイト、そして大学の講義など多くの人とコミュニケーションを取る機会があります。そんな中で私はみなさんに、できるだけたくさんの人とお話をして欲しいなと思います。私はこの鳥取大学に来て、様々な出身地の友達ができました。また、留学生とも友達になることができました。これらの出会いは、今でも私にとって大きな財産となっています。人との出会いは、自分に新たな価値観や経験を与え、そして人生をまた一つ豊かにしてくれます。

【目標を持つ】

大学生は自由な時間が多いため、少しでも目標を持って生活することが大切だと思います。この目標は学業、サークル、アルバイト、趣味など何でも良いと思います。大学生活をより充実したものにするために、何か目標を立ててみて下さい。私は1年生の頃、4つの目標を持っていました。1つ目は「海外に行って異文化に触れること」、2つ目は「教員採用試験に現役合格すること」、3つ目は「好きなアーティストのドーム公演に行くこと」、4つ目は「新しい楽器に挑戦すること」です。目標を立てることによって、「今自分が何をすべきか」が明確になり、その目標自体が頑張る理由にもなりました。時間はかかりましたが、4つとも何とか達成することができ、今は新しい目標に向けて頑張っています。

【とりあえずやってみる】

私は大学生活の間に様々なことにチャレンジしました。上記の目標の話とも少し関連してきますが、例えばオンライン英会話やドラムに挑戦したり、また少し難しい料理を作るなど小さなことから大きなことまで、「やりたい！」と感じたものはとりあえずやってみました。大学の授業に真面目に取り組むことはもちろん大切ですが、空き時間を有意義に使って、興味のあることにはどんどん挑戦してみましょ。それがいつか自分の強みとなるかもしれません。様々なことに挑戦することで、自分は何が得意で何が好きなのかを改めて知ることができます。大学生活は自分自身を分析できる大切な時期だと思います。

最後に、困ったときは一人で悩まず周りの人にぜひ相談してください。新生活で不安な気持ちを抱えていない人はいません。みなさんの大学生活が充実したものとなることを願っています。



人生で一度きりの大学生活！

医学部保健学科（令和3年度入学）

は せ が わ けん た
長谷川 健 太

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。これから始まる大学生活にワクワクしている人も「友達できるかな？」「初めての一人暮らし大丈夫かな？」と不安を抱いている人もいると思います。ここでは、そんなみなさんが、大学卒業時に「楽しくて、有意義な時間を過ごせた！」と思ってもらえるように、大学生活を送るうえで心の片隅に留めておいてほしいことをお伝えしようと思います。

①たくさんのことにチャレンジしよう！

これから始まる大学生活、みなさんはどんな想像をしているでしょうか？ 大学は高校の時と比べて、自由な時間が増えていき、自分の行動次第でどんなものにも変えていける場所です。失敗を恐れずに自分の心躍るものや興味のあることに積極的に挑戦してみてください。自由な時間はたくさんありますが、時間は限られています。あっという間に過ぎていく時間をどう使うかはみなさん次第です。まずは1ヶ月間、そして1年間。「最大限にやりきった！」と思える時間を過ごしてほしいと思います。これは、学業においても同じです。講義や実習のなかで、新しい学びを得たり、疑問が生じたりすると思います。それらのことを、講義が終わってから教科書や論文を読んだり、先生や友人に質問したり、様々な手段を用いて深く学んでみてください。知識の幅が広がるだけでなく、考えることの楽しさに気づいたり、より興味深い事象にたどり着いたり、自分の中の世界がどんどん広がっていくワクワク感に出会えると思います。さまざまなことに挑戦しながら多くの仲間と出会い、成長し、たくさんの思い出を作ってくださいね。

②健康が一番大事！

初めての一人暮らしで、生活リズムが乱れたり、部活動やバイトに夢中になったり、つつい健康に気を配るのを忘れがちになってしまいます。多くの人が初めての一人暮らしを経験することになると思います。これまでは保護者の方が準備してくださっていたバランスの良い食事も、これからは自分で準備しなければなりません。忙しくても、なるべく食事を抜かず、栄養バランスに気をつけること、十分な睡眠をとることを心がけてほしいなと思います。

どれだけ健康に気を配っていても、体調が悪くなることはあります。もしもの時に相談でき、助けてくれる友人がいると安心です。

最後になりますが、みなさんが楽しく、有意義な大学生活を送れることを願っています。



鳥取大学へ入学する新入生の皆さんへ

工学部化学バイオ系学科（令和2年度入学） **まつ だ たく や**
松 田 拓 也

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私は大学1年生から、皆さんは中学生や高校生のときにマスクとともに生活し、今があります。私は、時代の変化に対応しながら勉強に励んできた皆さんが本当に素晴らしい力を持っていると信じています。

新入生である皆さんのうち、多くの方が、大学生活は今までの生活より自由であると予想しているのではないのでしょうか。その自由に期待し胸を躍らせている方もいる一方で、自由でさまざまなことに挑戦できるがゆえに何をすればよいのか分からない、大学生活が不安だと思っている方はいませんか。私は大学入学直後、友だちができないのではないかと不安でしたが皆さんはいかがでしょうか。今、私の大学生活を振り返ると、私は自分らしさを前面に出したときの方が、うまく物事が進んだことが多かったように思います。私は、新入生のとき、自分自身を隠さず自然体でいたから気の合う友だちができたと思いますし、結果、大学生活を楽しむことができました。どうか皆さんも焦らずに自分の居心地の良い場所を少しずつ探してみてくださいと思います。

大学生は、自由です。専門的な講義の聴講、サークル活動、部活動への参加、アルバイト、旅行、海外留学、研究など、さまざまなことができます。皆さんは何がしたいですか。鳥取大学には、新しいことへの挑戦も、自分のもっているものを深める挑戦も、どちらの挑戦もできるように場や時間が準備されていると私は肌で感じます。私は工学、工学でないに関わらずさまざまな分野の講義を聴講しつつ、サークル活動、アルバイトをして、鳥取大学が企画している留学プログラムで台湾の大学へ留学しました。ぜひ皆さんにもさまざまなことに挑戦してみてください。

私はさまざまなことに挑戦してきましたが、はじめから多くのことができたわけではありません。少しずつ自分の限界に挑戦し、自分ができることをこつこつと増やしてきました。入学当初、私は講義に集中しました。次いで、履修する講義の数や資格試験の勉強時間を増やし、並行してサークル活動やアルバイトに注力し、最終的に留学しました（私は3年生の春休みに留学しましたが、留学したい皆さんにはできるだけ早い段階で留学することをお勧めします）。大学では自由な時間が大幅に増えますので、少しずつ、焦らず、自分のペースでさまざまなことに挑戦してみてください。

ここまで、私は焦らず、少しずつ挑戦することが大切だと主張してきましたが、大学生活のなかで、焦って失敗したと感じた当時の経験こそが、かえって今の私の人生の糧となっているような気がします。当時は恥ずかしかったのですが、焦りながらいろいろな分野に飛び込んだからこそ見えた景色があった、得られたものがあったと今なら思えます。

皆さんの挑戦もまわりまわって皆さん自身に返ってくることを心より願っております。



変化を恐れずに

農学部生命環境農学科（令和3年度入学）

きく ち
菊 池

あゆみ
歩

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから始まる大学生活をとっても楽しみにしている人もいれば、大きな環境の変化に不安を覚えている人もいると思います。そんな皆さんのお役に立てればと思い、私からお伝えしたいことをお話します。しかしながら、サークルやアルバイトで1学年、2学年下の後輩とお話することがありますが、皆さん考え方が私よりもずっとしっかりしていて、新入生の皆さんに向けても、私から伝えられることはあるのかなと思ってしまうぐらいですが、私自身の体験談も交えてお話しできればと思います。授業、サークル、アルバイト、一人暮らしでの生活などお伝えしたいことはたくさんありますが、人間関係に焦点を当ててお話します。

私が大学に入学して半年ほど経ってから、高校時代の友人から「久しぶり、元気にしてる？」と連絡がありました。友人は遠方に住んでおり、高校卒業後から連絡を取ってなかったため、電話をしてお互いの近況報告や高校時代の思い出話に花を咲かせていました。もうそろそろ電話を切ろうかなと思った時に、友人から宗教勧誘を受けました。私はなぜ急にこの話になったのか理解ができなくて混乱してしまい、その勧誘は断って電話を切りました。電話を切ってから、友人は「友達」として私に電話をしたわけではなかったのかな、友達と久しぶりに話ができることを楽しみにしていたのは私だけだったのかななど、友人に対しての不信感が募っていきました。その一方で、友人は理解してくれるかもしれないと思って私に話したとしたら、それを拒んだ私にも非があるのではないかなど、私のとった行動はこれで良かったのかと悩むようになりました。ただ、その時に感じたもやもやした思いを、大学でできた友人に相談することで、少しずつその時のショックが和らいでいったかと思っています。相談した時にある友人から言われた言葉ですが、「その友人も高校時代は本当に友達だと思っていたのかもしれないよ。でも、人の考えや気持ちは変化していくものだから、今も同じ関係だと思っているとは限らないんじゃないかな。」と言われ、それまでそのような考えを思いつかなかったのですが、その言葉を聞いて心が軽くなったことを覚えています。それでも、仲が良かった人とこのような形で疎遠になることは寂しい気持ちもありますが、人の気持ちは変化していくものだからと考えることによって、気持ちの整理をして次に進みやすくなるのではないかと考えています。

大学生活が始まるにあたって今までの人間関係から大きな変化が訪れるかもしれません。授業の時に隣の席だったことがきっかけで友達ができることなど、ふとしたことがきっかけで友達ができることがあります。新たな人間関係を築いていくことを楽しみに思う方もいれば、不安を感じる方もいるかもしれません。ただ、大学時代にできた友人は大学生活を過ごしていくうえでとても心強い存在になります。変化を恐れずに前向きにとらえて大学生活を送っていただけたら幸いです。



みんなで鳥取大学の学びを創ろう！

高等教育開発センター長 か がわ たか お 香 川 敬 生

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。「知と実践の融合」を掲げる鳥取大学へようこそ。大学は、社会に立ちこめるさまざまな問題を発見し、それぞれの専門知で解決してゆく術を学ぶ場になります。鳥取大学には、そのための仕組みもいろいろ用意されていますので、どんどん活用してご自身の成長につなげて頂ければと思います。

まずはeポートフォリオというシステムで、入学時の自分を自己評価してみてください。このシステムでは、みなさんが授業を通じて取得した能力、課外活動などを通じて得た能力や資格などを管理し、それを定期的に振り返って担当教員と共有することができます。年次を進める毎に獲得した能力が大きくなり、成長を視覚的に実感して頂けるものと考えています。また、その年度で足りなかったことを反省し、次の年度に繋げることで効率的な学修を進めることができます。さらにeポートフォリオでは、学外の動画コンテンツを視聴することも可能で、授業での理解を補い、興味のあるテーマについてさらに深く学ぶこともできます。ぜひ活用して頂ければと思います。

大学では、高校までに学んできた基礎にさらに磨きをかけ、それぞれの専門分野の最先端を学ぶこととなります。それぞれの講義はシラバスで内容が事前に周知され、それに沿って授業が進められます。また、eラーニングやオンライン会議システムなどを併用して展開される授業もあります。それぞれの授業には学びの工夫がありますので、単に聴講するだけでなく、積極的に参加して自ら学ぶことに努めて下さい。そのような学びの方法を身につけた強みが、目まぐるしく変化する今後の社会にも動じることなく、乗り越えて行ける自信になると考えています。

私が所属する高等教育開発センターでは、鳥取大学での教育がきちんと機能しているかの質保証も担っています。鳥取大学が提供する教育の内容について、高等教育開発センター教員と学生との意見交換会、各授業へのアンケート、その他教育に関するアンケートなどを実施していますので、ぜひ積極的に参加、回答して頂き、継続的な教育改善にご協力頂きたく思います。高等教育は、「教員が教えるもの」から「学修者である学生が主体的に学ぶもの」へと転換しています。みなさんにふさわしい「鳥取大学の学び」を、私たちと一緒に創って頂ければと思います。そのような活動を通じて得た仲間とのつながりで、あなたの人生が豊かになることを願っています。



自由と責任

入学センター教授 **もり** **かわ** **おさむ**
森 **川** **修**

みなさん、ご入学おめでとうございます。そして、ようこそ鳥取大学へ！

昨年（2023年）5月に新型コロナウイルス感染症の扱いが変わり、3年間の長い「コロナ禍」というトンネルを抜けました。みなさんは中学時代から部活動の禁止や活動時間・範囲の制限を受け、対外試合や発表会ができないなど大変な時期を過ごしたことと思います。それが高校3年生になってからは、それらの時間を取り戻すように思う存分楽しめたことでしょう。大学でも多くの活動がコロナ禍の前に戻ったように感じますが、一つだけ大きな違いがあります。それは、新入生であるみなさんが、全員「成人」であるということです。

2022年4月以降、日本での成人年齢は20歳から18歳に引き下げられました。まだ2年しか経過しておらず、成人の日を18歳で祝うのではなく、「二十歳を祝うつどい」などと呼ばれて、従来通り20歳で行事をするところが大多数のようです。みなさんは、高校在学中に18歳になりました。大人になった実感はあまりないと思いますが、すでに成人です。成人になると、物品の購入や契約は、保護者の同意を得ることなく、みなさんの自由に任されます。それと同時にそれらに関して責任を負いますので、内容があやふやなまま契約すると、それを取り消すために手数料が発生するなどの不利益を被ることも考えられます。みなさんは、これまでに中学校の技術・家庭科や社会科の時間、あるいは、高校の公民の時間に消費者教育（例えば、「クレジットなどの三者間契約」、「自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響」、「消費者行政」、「多様な契約及び消費者の権利と責任」など）を習ったことと思います。当時は、「テストにあまり関係ない」などとちゃんと聞いていなかったり、「そんなことを習った記憶がない」という人もいるかも知れません。しかし、鳥取大学では多くの方（約9割！）がひとり暮らしをするため、大変重要なことです。

これまでは、諸手続きなどを保護者や先生方に頼っていたと思います。未成年ではそれらのことをしてもらうのは当然でしたが、先ほど述べたように中学・高校の間に成人となる準備をいろいろな授業などで行って行っていました。これからはそれらを実践することになります。もちろん、初めてのことも多く、失敗することやわからないこともあるでしょう。そんなときには決して一人で悩まず、友達や先輩、保護者に頼ってみましょう。また、大学にはいろいろな窓口があり、そこには専門の事務職員や教員が居ますので、困ったときにはぜひ相談をしましょう。そうして生活に必要な知識や経験を積んで学んでいってください。

大学では勉強や研究だけでなく、先ほど説明したひとり暮らしに関わる生活に必要なことも大切な学びの一つです。それ以外に部活動、サークル活動、ボランティア活動、地域活動、アルバイトなどの経験から学ぶことがたくさんあります。さまざまな学びがみなさんの大学生活を充実したものとしてくれるでしょうし、大学卒業後や大学院修了後にその経験を活かし、社会で活躍することを願っています。



学びの多様性を体験しよう

教養教育センター長 こ ばやし まさ ひろ
小林昌博

新入生の皆さん、大学へのご入学、心からお祝い申し上げます。教養教育センターの代表として、皆さんにセンターの役割と概要をご紹介します。また、このメッセージが掲載されている「アゴラ」が、今回で記念すべき50号を迎えたことを皆さんと共に祝福したいと思います。創刊以来30年の長い歴史を持つこの広報誌が、新入生の皆さんにとって大学生活の指針となることを願っています。

皆さんは大学生活をスタートするにあたり、「全学共通科目」という一連の授業を受けることになります。これらは皆さんの専門分野の学修と並行して行われる、幅広い知識と教養を身につけるための科目です。具体的には、「入門科目」、「教養科目」、「外国語科目」、「健康スポーツ科目」という4つの分野に分かれています。たとえば、「教養科目」では基礎的な学問の理解を深める「基幹科目」や、特定のテーマに焦点を当てた「主題科目」を学びます。また、「外国語科目」では英語のほか、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語、そして一部の学部ではロシア語も学べます。

私たち教養教育センターは、これら全学共通科目の運営を担当しており、専任教員と他のセンターからの兼務教員で構成されています。センターは大きく「共通教育部門」、「外国語部門」、「健康スポーツ部門」の3つに分かれており、それぞれが皆さんの学びのサポートを行います。これから始まる新しい学生生活において、私たちは皆さんの学びのパートナーでありたいと考えています。さあ、一緒に学びの旅を始めましょう。この後には各部門の代表者から、それぞれの部門の魅力と役割についての詳しいメッセージが続きます。ぜひお楽しみください。

教養を広げよう

(共通教育部門：教授 武田元有)

共通教育部門では、体系的な基幹科目（人文・社会・自然）や各論的な主題科目の運営を通じて、教養教育の充実に努めています。とはいえ、せっかく専門知識を身に付けたくて大学に入ったのに、なぜ今さら専門と関係ない教養を学ぶのか、疑問なひとも多いでしょう。自分の専門は歴史ですが、確かに理系の学生にとって人文・社会の授業科目、逆に文系の学生にとって自然科学の分野は、なかなか興味を持ちにくいものです。しかし、例えば産業革命＝工業化は、科学技術の革新だけでなく、自由な経済活動を保証する社会変革を前提としていますし、また社会・経済の構造や文化・芸術は、しばしばその土地特有の気候・風土を条件に成立することがあります。専門と一見関係なさそうな教養の修得は、実は専門を深める上で有益になるのです。

ところで歴史学の世界では、なぜ学問・科学が発展したドイツでナチズム（ユダヤ人迫害・ポーランド侵攻を伴う）が成立したのかという難問がありますが、当時の大学教育に責任の一端を求める見解は示唆的です。かつて学術を主導したドイツの大学（アルバイト、ゼミナールなどの大学用語はドイツ語です）は、研究に偏向するあまり、本来の使命たる教養の育成を軽んじたため、ものごとを全体的に見ることができない専門家集団が形成され、ナチズムの台頭を許したとするものです。昨今の

国際情勢（ウクライナ侵攻・パレスチナ迫害）を見ても、歴史的・全体的な思考の必要はますます高まっており、広い教養は大学での専門学習に有益であるのみか、21世紀を生きる市民に不可欠とさえ言えます。みなさんの健闘を祈っています。

視野を広げ、あらゆる可能性に心を開くチャンス（外国語部門：講師 クリストファー・ハリス）

新入生の皆さん、このたびはご入学おめでとうございます。“I am a university student.”と言えるのはとてもハッピーなことですね。しかし、英語の「university」は、本来どういう意味か知っていますか？「University」という言葉は、「Universe」の「世界／宇宙全体」という意味と同じように、ラテン語の「universus」に由来する「全体」とか「一体」という意味です。つまり、「大学」(university)では「世界／宇宙全体」について学ぶのです。ですから、世界／宇宙全体を学ぶという大学生活が提供するあらゆる可能性に心を開くようにして下さい。

大学時代は、視野を広げ、心を開き、世界全体を体験する一生に一度のチャンスです。鳥取大学で利用できるありとあらゆるツールを積極的に活用し、世界／宇宙全体・大学の一員として、皆さんの学びと成長に役立てて下さい。また、異文化コミュニケーション能力、対人関係能力、問題解決能力、批判的思考能力、国際感覚を養うために、英語やその他の外国語の勉強も頑張ってください。また、世界を肌で感じるために、鳥取大学の留学プログラムに参加することを強くお勧めします。そうすることで、現在の自己アイデンティティの一部を包含する、人生における新たな重要な言葉の意味を十分に理解することができるようになります。

この次に“I am a student at Tottori University.”と誇らしげに言うときには、「大学」という言葉が「世界／宇宙」という言葉をいかに内包しているかをよく考えてみてほしいと思います。大学で世界／宇宙全体を学ぶ皆さんの健闘をお祈りします。Good luck!

新入生のみなさんへ（健康スポーツ部門：准教授 瀬戸邦弘）

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学受験という人生の大きな関門を突破して晴れて大学生になられた皆さんを心から祝福するとともに、鳥取大学の一員として歓迎いたします。

さて、みなさんが新たに得たステイタス「大学生」とは、これまでとは比べものにならないほど自由度が高く、活動範囲も拡がり、自分の意志さえあれば、社会（世界）の広さとその深さをいくらでも体感できる素晴らしい時・空間となります。しかしながら、みなさんが社会（世界）に飛び立つ前に知っていてほしいこともあります。それは「18才までに知り得た世界は、殊の外狭いところだったということ」です。さて、大学でスポーツ実技の授業が行われていること。このこと自体に疑問を持つ学生も多いと聞きますが、実はスポーツを行う空間とは上記の疑問への答えに繋がった場所とも言えるのです。少し説明するならば、スポーツ空間とは、他者と「協同」「協調」「協力」しながら何かを創る空間であり、その際にはこれまで作ってきた自分と向き合い・問いかける、そんな時間にもなります。全国から集まる仲間は、これまでの「当たり前」とは異なる価値観を持ちあなたに語りかけます。そんな仲間達と一緒に、これまでの自分の枠組み（の限界）とその先にある可能性を知る、スポーツ実技とはそんな学びの空間となっています。「今の自分を知ること」、そこが大学生にとってのスタートラインです。ひとつひとつの出会いを大切にみなさんの大学生活が実り多きものになりますように祈っています。



ようこそ鳥取大学へ！

データサイエンス教育センター長 **橋本隆司**

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。データサイエンス教育センターからのご挨拶とセンターの紹介をしたいと思います。

皆さんは、入学後すぐに「全学共通科目」と呼ばれる科目（授業）を受講することになりますが、データサイエンス教育センターでは、このうち、「データサイエンス入門」と呼ばれる科目を担当しています。この科目は外部の教材を利用しオンデマンド形式で行います。言うまでもなくデータサイエンスの素養は文系・理系の区別を問わず必要とされ、本科目ではビッグデータ時代を生きる全ての大学生が身に付けておくべきリテラシーとしてのデータサイエンスへの入門を解説します。

次に本センターの役割ですが、鳥取大学におけるデータサイエンス教育に関する企画・開発等を行い、論理的思考力・課題解決力を備え、かつ、新しい価値を生み出す人材を育成するための教育プログラム開発等を支援し、本学におけるデータサイエンス教育の推進を目指しています。

おしまい、私から個人的な（おせっかいな）アドバイスをお伝えして拙文を終えます。

1. 基本的な生活のリズムを整えること。

早寝早起きをし、食事は毎日三度、栄養のあるものをしっかりと摂って生活のリズムを作ってください。

2. なんでもいいから自分が熱中できるものを見つけること。

寝食を忘れるくらい熱中できるものを見つけてください。大学は「知的レジャーランド」です。図書館に行けば疑問に思ったことは直ちに調べられるし、インターネットへの接続環境も快適でサクサクつながります。それからこれが最も大事な点ですが、大学には各学問分野の専門家である先生が数多くおられます。これを活用しない手はありません。

3. 困った時は一人で悩まず誰かに相談すること。

これは何も大学生活だけに限ったことではありません。人生には楽しいことばかりとは限りません。困ったなあと思った時は一人でその悩みを抱え込まず、周りの誰かに、それが難しい時は例えば大学の学生支援センターに相談してください。きっと力になってくれるはずです。

それではこれからの鳥取大学での学生生活を満喫してください。



大切だと思うこと

教員養成センター准教授 おお たに ただ し
大 谷 直 史

大学入学は、それが一人暮らしを伴うのであればなおさら、みなさんの生にとって大きな節目となる出来事でしょう。ですから新しく何かを始めようとか、自分を変えようとか、そんな思いを持つこともあるのだと思います。でも意図しようがしまいが、大学生という時間は、それまでの環境の制約から一気に解き放たれるとともに、数々の新しい出会いの中で自分というものが更新される時期なのだろうと思います。

そうした変化への対応がうまくいけばいいのだけれど、気候が合わないとか、講義に興味を持てないとか、人間関係でつまずいてしまうこともあるでしょう。ぼく自身あまり社交的とは言えない性格なので、孤立感を抱くことも多かったような気がします。でもこのところ、日本社会はずいぶんとぼっち仕様にカスタマイズされてきているので、挨拶のできないぼくのような人間でも、ある程度生きやすくなってきているのでしょう。コロナ禍がそれを後押ししたようで、食事に行っても一人用の席はいくらでもあり、マスクで顔を覆っていても全然不審ではない。まあ元々大学は一人で行動していても、そんなに奇異な目で見られることはなかっただろうと思うのですが……。とは言え、ぼくのリサーチによると、豊かな友だち関係を持っていることは、大学生生活に満足するための主要な資源なのです。恋愛からの撤退が始まって久しいため、その存在意義はますます大きくなっていることでしょう。

学業に打ち込めるならそれに越したことはないだろうし、それがサークル活動でも、アルバイトでも、ボランティアでもかまわない。同じ頂きを目指しているのであれば、その間には友情と呼ばれるつながりが自然と生まれる手はずとなっています。そんなものがすでに、あるいはすぐに見つかる幸運を手にしていないのなら、誰かを助ければよい。助けたら友だちになれる（と誰かが言っていた）。助ける人がいなかったり、助けられなかったりするならば、自分が助けてもらえばよい（とも言っていた）。いやそこまで頑張らなくて友だちを作る必要があるのだろうかと思うかもしれない。だが、ある（と思う）。

世界情勢を見ても、戦争や貧富の格差による「分断」はどうやら進行中。たぶんわたしたちは分断を乗り越えるために、見知らぬ他者との対話の作法を身に付けなければならない。これって身のまわりの他者と友だちになるっていうことと、ひとつながりになっていると思いませんか。大学は日常意識とは切り離されて、対話を楽しめるフィールドなので、ぜひどうぞ。



これからの4年間・6年間の重み

キャリアセンター准教授 なが お ひろ のぶ
長 尾 博 暢

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。私は、「キャリア入門」（農学部生命環境農学科は「キャリア入門Ⅰ」という、鳥大（とりだい）の1年生が前期に履修する科目を担当している教員です。地域学部・医学部・工学部・農学部のいずれの学部でも、みなさんとはその授業科目を通じて必ず接点*がありますので、どうぞよろしくお願ひします。

さて、その「キャリア入門」という科目について、簡単に説明します。この科目は、鳥大で充実した学生生活を送ることが今後のキャリア形成にとって最も確かな基盤になるという考えを核にしなが、学生一人ひとりが自らの生き方・働き方について理解と関心を深め、将来を視野に入れた目的意識に根ざした学生生活を実現していくことを目標としています。つまり《充実した学生生活への動機づけ》がこの科目の、そして1年生前期のうちにみなさんに履修してもらうことの、ねらいです。特に鳥取地区の授業では、「キャリア」に関する具体的な知識や情報を授業担当者が提供するだけでなく、毎回の授業で得た気づきや学びを学生生活内の他の領域（学部専門科目、サークル活動、アルバイト、ボランティア活動、インターンシップ、資格取得、等）に波及させるために、自らが取り組む課題や目標を設定し、その後の具体的な成果や進捗しんちやく状況を報告してもらう活動も授業に組み込んでいます。これから始まる4年間（ないしは6年間）に向けて、すでに希望や期待に胸をふくらませている人も、逆に、受験勉強から解放されたもののそこから先のことがまだ何も考えられないという人も、「キャリア入門」を通じて、鳥大での学生生活をより充実したものにする手がかりをしっかりとつかんでください。

また、新入生のみなさんには、これからの数年間を「鳥取」で過ごすことの人生における意義を、学生生活を通じて最大限高めてほしいと思います。なかでも、住み慣れた場所を離れて鳥取で暮らし始めた人のほうが多数派でしょうが、その人たちはぜひ、これから数年間にわたり人生にとってかけがえのない時代の舞台となる鳥取を、新たな“地元”としてとらえ、この地に強く・深く・広く、時には鋭く、目を向けてください。そして、鳥取から吸収できること、逆に鳥取に何かできることを考えてほしいと思います。現に、鳥取県以外から入学した鳥大生の先輩が、鳥取を舞台に精力的に活動しているという事例は数知れず、本当に頼もしい限りです。いっぽう県内から進学した人には、慣れ親しんだ“地元”を単にこれまでの延長線上としてとらえず、他地域から来た人の見方を知り、あるいは自ら他地域や世界に身を置くことを通じて、ぜひ鳥取での学生生活に、高校までとは異なるあなたなりの格別の意味をもたせてくれることを期待します。

気づけば紙幅もあとわずか。それでは4月からの「キャリア入門」で会いましょう！

（※地域学部の新入生のみ、自らの手で履修登録（金曜4限開講クラスを選択）を行ってください。）



「世界」はあなたのすぐそばに

国際交流センター教授 **お たち くり え**
御 館 久里恵

ご入学おめでとうございます。鳥取大学へようこそいらっしゃいました。

みなさんの中には、日本で最も人口が少ない県に来て、寂しくならないだろうかと不安に感じている人もいるかもしれませんが、決してそんなことはありません。「世界」はあなたのすぐそばに広がっています！国際交流センターでは、みなさんが鳥取にいながらにして「世界」を体験できる機会や、みなさんが「世界」に飛び出していく機会を数多く提供しています。

鳥取大学には、およそ30か国から来た約170名の外国人留学生がいます。自分の授業のない時間に留学生の日本語クラスに参加してサポートをしたり、留学生とペアになってお互いの空き時間に交流を深めたりする「日本語パートナー」という活動があります。また、留学生とさまざまな言語を通して交流する「日本語カフェ」、「英語カフェ」、「中国語カフェ」などのイベントもあります。学生による国際交流団体「G-frenz(ジーフレンズ)」に参加すれば、留学生と一緒に自分たちで国際交流イベントを企画・実施することができます。授業以外でさらに語学力を高めたいという人は、昼休みや放課後に無料で開催されている「語学強化コース」や、週末2日間をネイティブ講師や留学生のTAと英語漬けで過ごす「国内英語イメージンプログラム」にぜひ参加してください。

そして、自ら世界に飛び出したい！という人のためにも、様々なプログラムが用意されています。夏休みや春休みを利用した短期プログラムは、語学を中心としたもの、語学と異文化体験を中心としたもの、フィールドワーク等の実践を中心としたものなど、目的や期間（10日間～2か月間）、実施国等から自分の希望に合ったプログラムを選ぶことができます。また、各学部でも、それぞれの専門に応じた海外プログラムが用意されています。さらに長期で留学したい人は、交換留学を考えてみてはいかがでしょうか。鳥取大学の協定校で半年間から一年間学び、単位を取得します。取得した単位は鳥取大学の単位として認められますので、留年せずに卒業することも可能です。大学での学習以外に、海外でやってみたいビジョンや計画がある人は、全国公募型の「トビタテ！留学JAPAN」に挑戦してみましょう。応募にあたっては、国際交流センターが全力でサポートします。

さらに、「鳥取大学グローバル人材育成教育（TOUGH）プログラム」に登録すると、上記の国際交流活動に対して、「グローバル活動ポイント」が付与されます。このポイントと、グローバル科目の履修、外国語試験のスコアや級などの定められた基準を満たした人には、大学からグローバル人材としての認定証をお渡ししています。ぜひ登録してグローバル人材としての足跡を残してください。

異なる文化的背景を持つ人たちとの交流や、初めて訪れる場所での体験は、驚きと発見の連続で、自分自身の考え方や価値観を見つめなおす機会にもなります。きっとみなさんの人生を彩り豊かにしてくれることでしょう。私たちと一緒に、「世界」を身近に感じてみませんか。

新しい始まり

地域学部地域学科（令和5年度入学） **キム ヨンイン**

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私は、2023年度入学の留学生、キムヨンインと申します。大学生活を目の前にして、たくさんの期待や不安なことがあると思います。私も入学したばかりの頃は、みなさんと同じ気持ちでした。そこで、同じ気持ちを持った先輩として、みなさんにより良い大学生活を送っていただくためのアドバイスを2つ書かせていただきます。

1つ目は、友達をたくさん作ることです。高校とは違い、大学の勉強はとても難しいと感じることが多くあります。そこで、友達と助け合うことで、より深く理解することができると思います。さらに、鳥取大学が総合大学であるという利点を活かし、他の分野の人々と意見を交わすことで新しい見解を得ることは、大学の授業だけでなく、卒業後にも良い影響を与えたいと思います。

他にも、大学生活で友達がいることで得られるメリットはたくさんあります。それは単純に4年という時間の間友達と一緒に過ごすのがもっと面白いのも理由の一つですが、高校とは違い、大学では自分で、履修登録をしなければなりません。みなさんがどんな授業を受けてどんな学校生活を過ごすのかは、もう学校は決めてくれません。決められた範囲の中から、皆さんが自由に決めなくてはならないのです。もちろん、それによって得られることが多いと思いますが、そこから来る不利益も皆さん自身が受けるしかありません。しかし、このような時に友達がいたら、分からない部分があればお互いに訊いて頼りあうことができるのです。私自身も多くのことで友達に助けられました。このように、大学生活には、友達の存在は欠かせません。最初は、恥ずかしいかもれませんが、鳥取大学には、同じような志を持った仲間や先輩が沢山います。ぜひそんな人を味方につけて充実した大学生活を一緒に過ごしましょう！

2つ目は、大学の授業は自分から学びに行く姿勢を持つことが大切だということです。今まで学校の授業は、知識の量で成績がつくということが多くあったと思います。しかし、大学の授業では、それとともにあるいはそれ以上に、皆さんの考えを重要視していると思います。学部を問わず皆さんの考えを成績に反映する授業が大学には多くあります。このような授業は、最初は大変だなと感じるかもしれませんが。私自身、大学に入る前までは、みなさんと同じように、知識詰め込み型の授業を受けてきたので、自分の感想や考察を課題や試験で求める大学の授業が難しいと感じていました。しかし、先述したように友達と協力したり、図書館などで調べることによって、正解に縛られずに自分だけの考えを深く探求するきっかけになり、より広い視野を得ることができました。このように、自分から学びに行く姿勢を持つことが、大学生活をより充実させることにつながると考えています。

最後になりますが、大学生活は、良くも悪くも自由なことが多くて大変だなと感じることも多いと思います。しかし、多くの友達や先輩、先生たちは、みなさんを助けてくれる存在です。大学生活、友達と楽しんだり、自分からどんどん学びに行きより充実した大学生活にしましょう。また、どこかで会えることを楽しみにしています。



穏やかな学生生活のために

保健管理センター所長 **三島香津子**

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

保健管理センターは一言で言えば『大学の保健室』です。看護師（保健師を含む）・医師・カウンセラーが勤務し、主に以下のことを行いながら皆さんの大学生活をサポートしています。

【心と身体の相談・診察】 悩みごとやつらい気持ち、頭痛・腹痛やアレルギーなど、心身の様々な症状の相談に看護師やカウンセラーが応じています。医師（内科及び耳鼻科の教員2名の外、内科、婦人科及び精神科の学校医が勤務）による相談や診察も行っています。小さな悩みや些細な症状でも、そのままでは解決しない・悪化してしまうことがあります。気になる時は保健管理センターに相談してみましょう（保健管理センターHPお問い合わせフォームから申し込みができます）。

【休養、怪我の応急処置等】 ベッドを備えた休養室があり安心して休めます。看護師や医師が怪我の応急処置を行っています。体調がすぐれない時や怪我をした時は、小・中・高校の保健室と同じように利用して下さい。

【健康診断】 毎年4月に健康診断を実施しています。健康診断は体調の確認・不調の気づきにつながります。また、大学で実施する健康診断は全て無料で、受健すると、実習や就職活動で必要となる健康診断証明書が無料で枚数制限なく発行できます。忘れずに受けましょう。その他、実験等に従事する際に必要な特殊健康診断を、対象となる学生に毎年実施しています。

【日々の健康サポート】 食生活・運動等の生活習慣のアドバイスや、アルコールパッチテストや呼気CO測定器を用いた飲酒・禁煙に対するサポートを行っています。骨量測定の他、心のセルフケアやコミュニケーションスキルを身に付ける機会を設けています。自動身長体重計、InBody(体組成計)、自動血圧計、視力測定器を設置し、保健管理センター開所時間内は学生の皆さんは自由に使用できます。健康に関する各種リーフレット・ジャンルに富んだ図書があり貸し出しも可能です。HPでは、毎月の医療・健康情報カレンダーなど、身近な健康情報を定期的に発信しています。

ここ数年、そして令和6年は年始から様々な出来事が国内外で起きています。平穏な毎日はとても貴重で、穏やかな日々の上に夢や新たな目標・アイデアが生まれ育っていくと感じています。鳥取大学に入学した皆さん一人一人が、穏やかな学生生活を過ごすことができるよう、保健管理センタースタッフ一同寄り添いサポートしていきたいと考えています。



何故に、そして、学生支援センターへ どうぞ

学生支援センター長 **後藤 知伸**

「何故大学に入学したのですか」 かつての私の答えは「周りの皆が行くから」、「憧れがあったから」、「就職で有利だから」でしたが、今でも答えるのが少し難しい質問です。答えが本当なのか疑っていたり、他者からどう思われるかを気にしていたりする自分がいるからです。あなたの場合はどうでしょうか。

「何故ここにいて、何をしようとしているのか」とときには意識的に問うてみて下さい。自らに問うことは、なかなかしんどいことで、私も逃げてばかりです。しかし、そうすることは、あなた自身を育て、あなたの人生に目標や張り、覚悟を与えてくれるものと思います。

新生活、ワクワクしますね。学生生活には、あなたの好奇心を刺激することが沢山待っています。迷うことや悩むこともあるでしょう。自分一人で考えずに、周りの人に相談するのも良い手です。学生支援センターでは、大小どんなことでもあなたと一緒に考えます。



NEED ANY HELP?

(インテイカー 稲垣めぐみ)

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。学生支援センターは、学生の皆様が充実した生活ができるようサポートしています。日々のなんでも相談、例えば、「講義室の場所がわからない」「Wi-Fiが繋がらない」などのトラブルから、「話を聞いてほしい」「履修登録の方法がわからない」「やりたいことが見つからない」というような相談まで、多岐にわたった相談を受けています。私たちスタッフにもわからないことがあると、一緒に考えること

もしばしばです。皆様に寄り添った対応ができるよう心がけていますので、遠慮なく駆け込んでいただけたら幸いです。また、障がいや疾病などによる修学上の特別な配慮が必要な方への相談窓口もなっております。学生生活で困ったと感じることがありましたら、学生支援センターにご相談ください。

私たちの活動として、思いやりのある大学を目指すことを目的に、令和4年度より助け合いの気持ちを意志表示するサポートマークを広げる活動をしています。

「そのときの自分にできる範囲で、お手伝いしますよ」という優しさの気持ちを表したデザインで、学内投票で決まったマークです。新入生のみなさんも、このマークを目にすることがあると思います。ピンバッジ、キーホルダーを身につけた方や、窓口やPC等に貼りサポートの意志を表している方がいます。学内で困った時には、マークをつけている方に気軽に声をかけてみてください。そして、大学生活に慣れてきたら、ぜひ皆様にもマークを身につける側になっていただけると嬉しいです。



学生支援センターでは、他にも皆様と共に楽しめるイベントや学び合える研修も用意しています。これからの輝かしい未来への一助となれば幸いです。

スタッフ一同、新入生の皆様とお会いできる日を楽しみにしています。

こんな人はいませんか？

友人や先輩、先生との関係がうまくいっていない、自分に自信が持てない、修学意欲がわかず無気力
イライラする、不安を感じる、怒りっぽい、集中できない、
教室でいつも一人、しばらく授業に出ていない（姿を見ない）
アパートや学外での勧誘、アルバイト、ネット利用のトラブル…

自分のこと、クラスやサークルの友人のことについて、どんな相談も受け付けます。

ひとりで悩まず鳥大生サポート窓口へ…

鳥大生サポート窓口

(いずれも相談の秘密は厳守されます)

1. 学生相談員

各学部に教職員の相談員がいます。所属学部以外の相談員も相談に応じます。

2. なんでも相談、健康相談

鳥取、米子両地区で相談専門窓口があります。

なんでも相談は、学生支援センターで学生生活におけるあらゆる疑問や悩みや困っていることを聞いて、より適切な解決方法のアドバイスや相談先（学内外の関係者）を紹介しています。「身近な人には相談しづらい」「気がかりなことがある」「何となく話をしてみたい」といった場合にも、気軽にご利用ください。

健康相談は、保健管理センターで、身体・精神面の健康上の問題についての悩み・相談に対し医師や臨床心理士によるカウンセリングが受けられます。原則として予約制ですので、事前に予約をお願いします。

鳥取地区

なんでも相談（学生支援センター） TEL 0857-31-5794（直通 平日のみ 8:30-17:15）

鳥取大学保健管理センター TEL 0857-31-5065（直通 平日のみ 8:30-17:00）

米子地区

なんでも相談（学務課学生係） TEL 0859-38-7100（直通 平日のみ 8:30-17:00）

鳥取大学保健管理センター（米子分室） TEL 0859-38-6495（直通 平日のみ 9:00-17:00）

【鳥取大学学生用緊急連絡先QRコード】

もしもの時のために登録を！

<https://www.tottori-u.ac.jp/campuslife/support/mobile/>



なんでも相談、健康相談の場所

【鳥取キャンパス】



● **なんでも相談
(学生支援センター)**

共通教育棟A棟2階
平日のみ
8時30分～17時15分
☎0857-31-5794 (直通)
✉ st-support@adm.tottori-u.ac.jp

● **保健管理センター**

平日のみ
8時30分～17時00分
☎0857-31-5065 (直通)
✉ hokekan@ml.adm.tottori-u.ac.jp

【米子キャンパス】



● **なんでも相談
(学務課学生係)**

総合教育棟1階
平日のみ
8時30分～17時00分
☎0859-38-7100 (直通)
✉ st-support@adm.tottori-u.ac.jp

● **保健管理センター
米子分室**

総合アレスコ棟(保健学科棟)3号館1階
平日のみ
9時00分～17時00分
☎0859-38-6495 (直通)
✉ hokekan@ml.adm.tottori-u.ac.jp

ἀγορά
【アゴラ】

令和6年4月 No.50 発行
鳥取大学教育支援・国際交流推進機構教養教育センター
〒680-8550 鳥取市湖山町南4丁目101番地
TEL 0857-31-5795 (学生部教育支援課)
FAX 0857-31-6762
E-mail st-soumu@ml.adm.tottori-u.ac.jp <https://www.tottori-u.ac.jp/institute/international/page/>

ἀγορά (agora、アゴラ) とはギリシア語で「人の集まり」「人の集まる場所」「広場」「市場」を意味します。
この教養教育センター広報誌は、全学の学生に共通に関わること (= 全学共通の教養教育) の広場となることを願って、「アゴラ」という名称が採られました。